

文字のフォントと記憶力の関係

A3班

1. 序論

近年、科学技術の進歩と急激なグローバル化によって、コンピュータスキルや語学力が求められる職業が増加した。それに伴い、学生はそれらの技術を身につけるための学習も行うようになり、限られた時間の中で効率よく幅広い分野を学習する必要が出てきた。そこで私たちは、記憶に残りやすいフォントを調べることで、記憶作業以外の学習により多くの時間をかけられるように手助けをしたいと考えた。

2. 材料と方法

フォントと記憶力の関係についてしらべるために次の手順で実験を行った。

- ① 90秒間で200字程度の問題文を暗記してもらう。※1
- ② 5分間の動画を見てもらう。※2
- ③ 覚えてもらった文章についての質問を11問解いてもらう。※3
- ④③で書いた答えを Googleフォームに送信してもらう。

※1問題文は架空の国、ケーキ、ゲームについての文章で、それぞれについての情報が架空の固有名詞を使ったもの3個、それ以外のもの7個の計10個書かれている。また、国についての問題文は取り消し線を引いた教科書体、ケーキについての問題文は教科書体、ゲームについての問題文はインビジブルゴシックで書かれている。

※2この5分間ならば好きなことをしてもいいとした。

※3制限時間は2分間とした。

なお、実験手順に誤りが出ないようにするため手順を指示する動画を作り、その動画を流しながら実験を受けてもらった。

4. まとめ・結論

文字は読みにくいものほど記憶に残りやすく、教科書体に取り消し線をひくだけでも効果があった。

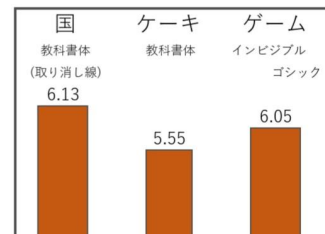
よって教科書やプリントなどに印字された文字に学生自身が取り消し線をひくことで、低コストで学習効率を上げることができると思う。

その一方で、読んでいる人が疲れやすいなどの欠点もあるので、用途・目的に応じて、取り入れていくことが必要である。

3. 結果・考察

<結果>

フォント別の被験者の解答の平均をとった結果、
取消線を引いた教科書体→6.13点
教科書体→5.55点
インビジブルゴシック→6.05点
下は平均点数のグラフである。



教科書体は取消線を引いた教科書体と比べて0.58点、インビジブルゴシックと比べて0.5点、被験者の正答率が低い結果となった。

<考察>

実験結果より、読みやすい文字に比べて読みづらい文字はやや記憶に残りやすいことがわかった。しかし、今回の実験実施人数は少なく、信憑性が低いと考えたため、他の文献を調べたところ、

読みづらいフォントタイプを使用した場合には、読みやすいフォントタイプを使用した場合と比較して、パフォーマンスが高くなると、同じような結果がみられた。

また、教育現場でのフォントタイプの活用については、教科書の重要な部分に自分で取消線を入れることで、費用を抑えた上での学習効率の向上が期待できる。

参考文献

手書きとフォントの文字形状の違いによる記憶効果の比較
(伊藤 理紗、濱野 花莉、野中 滉介、菅野 一平、中村 聡史、掛 晃幸、石丸 築)
日本語フォントタイプの変更による学習効果の促進(根岸一平、小玉美咲)